

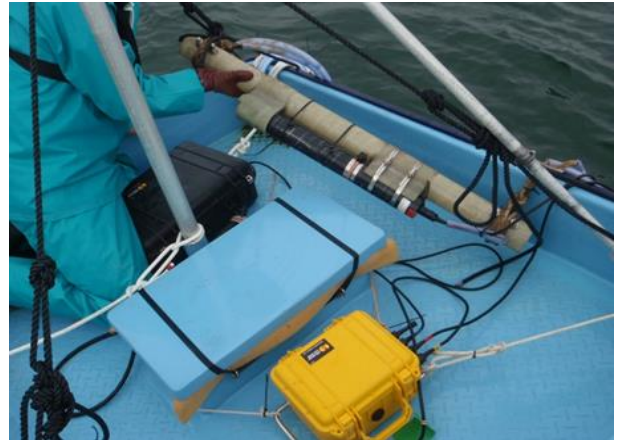
東北は今

本年 9 月上旬、海水中の栄養塩濃度を現場で測定するシステムを導入している岩手と宮城の研究機関を訪問する機会を得た。三陸の海は瀬戸内海に比べ水深が深く、波も高いため設置には注意が必要である。しかし、実際に見学してみると特殊な固定器具は無く、ほぼロープのみを使用したシンプルな設置方法であった。話を聞くと、メインロープの磨耗を避けるため可能な限りロープ以外の器具は使用しないとのことだった。ロープの結び目を良く見ると、そこには決して解けないような工夫が存在し、ロープワークの奥深さを強く感じた。

訪問した研究機関では、建築ラッシュに伴う資材不足もあって未だ被災した施設や仮設の施設を利用して業務に取り組む職員の姿があった。

海に目を移すと、そこには豊かな三陸の海が広がっており、秩序だって横たわるワカメ養殖延縄は壮観であった。東北の水産業も徐々にではあるが以前の状態に戻りつつあり、宮城県のカキ養殖業では震災前の 80% 近くまで生産が回復している。

西日本にいと他人事のように思えてしまう東北の状況だが、現地に足を運んだ者として今後も東北のことを記憶にとどめ、微力ながら復興に貢献したい。(水圏環境室：渡辺)



測定システム一式



修繕途中の港湾施設



被災後も利用されている研究施設